

えにしアカデミー



学びの2年間をご紹介します

入学を迷っている方、事業所長の皆様へ
皆さんが福祉業界で長く積み上げてきた実践と、一流の講師による理論を重ね合わせて
これまでにはなかった新しい福祉と一緒に創造してみませんか？
修了後には「入学して良かった。」と思える、そんな学びの場が「えにしアカデミー」です。
えにしアカデミー学長 上野谷加代子

入学から修了までの軌跡

1年目

入学式



毎年10月に入学式を挙行政します。
入学者だけではなく、アカデミーに送り出してくださった推薦者の方、先輩である2年生も出席します。

オンライン講義(講義60分+振り返り30分)



学識経験者・福祉実践者をフェローに迎えて
毎週金曜日にオンラインで受講します。
講義は録画しているので、聞き逃しても何度も視聴できます。
講義後の振り返りでは時間が許す限りフェローに
直接質問をすることができます。

集合講義(180分)



年に数回対面形式で受講します。
フェローから直接指導いただける貴重な機会です。
集合講義は一般の方も受講ができるので、グループワークを
通して様々な分野の方とも交流があります。
「180分あったという間だった。」という声が多く聞かれます。

交流会



集合講義後に交流会をおこなうこともあります。
お茶菓子を用意してフェローを含めた参加者で
和気あいあい意見交換をして盛り上がります。

1年生ゼミ



毎月1回オンラインでおこないます。
講義とは違い、論文執筆に向けた指導を受けます。
分析方法や相手への伝え方など、論文執筆に限らず
日頃の業務でも活かせる様々な技法を学びます。

1年目ではオンライン講義や集合講義を中心に高齢、障害、児童などの座学を
中心に多岐に渡る福祉分野を学びます。
学ぶ分野の範囲はそれぞれミクロからメゾ、マクロとすべてを網羅できるので、
福祉業界に長く従事されている方も新たな気づきを得ることができます。

2年目

1年目で学んだ知識、気付き等を活かして、少人数のゼミクラスに分かれて修了に向けて論文の執筆をおこないます。

日々業務のなかで感じている疑問や課題が研究テーマとなるので、執筆後には解決の糸口をつかむことがきる論文となります。

ゼミに分かれて論文指導



2年目になると毎月1回ゼミ担当フェローから論文の執筆指導を受けます。論文の執筆は初めてという方も多くおられますが、書き方からまとめ方までイチから丁寧に指導いただけるのでご安心です。

1月 修了論文構想発表会

1月初旬には執筆予定の論文テーマなどを発表する構想発表会をおこないます。様々なフェローから助言をいただける貴重な機会です。



発表会後の交流会



構想発表会後には交流会！！
普段は画面上でしか会えないフェローや同期生たちと親交が深まります。

8月 修了論文発表会



指導を受けながら調査・研究をおこない、約1年かけて完成させた論文をフェローや先輩修了生、後輩、そしてアカデミー関係以外の皆様の前で発表します。



9月 修了式



学びを経て論文執筆を終えると、えにしアカデミーの全課程が修了となります。えにしアカデミー学長からは「修了証」を、滋賀県社会福祉協議会会長からは滋賀県知事との連名で「滋賀の福祉人マスター」の称号がそれぞれ授与されます。学長から「修了おめでとう。2年間本当によく頑張りました。」その言葉に、働きながら学んだ2年間の苦労も良い思い出に変わります。



修了証授与



滋賀の福祉人マスター
称号証授与

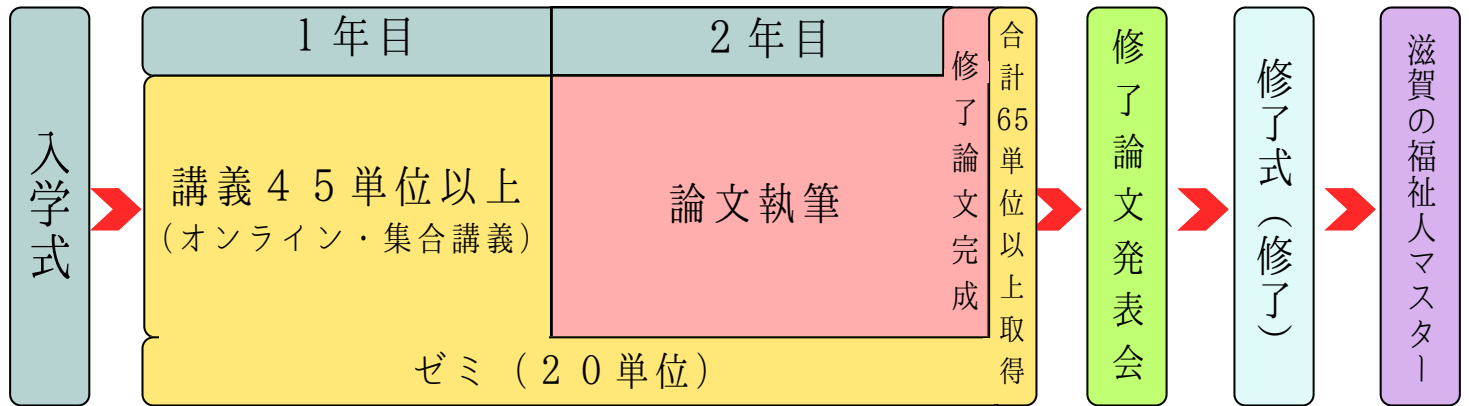


入学から修了までの流れ

講義45単位（以上）とゼミ20単位、合計65単位取得し、修了論文を執筆することで修了となります。
（オンライン講義1回/1単位・集合講義1回/3単位）

ゼミについては20単位固定での付与となります。

* 講義のみで65単位を取得しても修了とはなりません。



修了論文テーマ（3期修了生執筆）

- ・ 多分野協働実践における興味・関心・強みを活かしたリーダーシップ ～次世代のリーダーシップ育成に向けて～
- ・ 滋賀県内市町社協における地域福祉の推進と持続可能な経営の両立に関する考察
- ・ 認知症高齢者グループホームの役割と現実との乖離
～グループホームの目的、役割が機能するために必要なこと～
- ・ 乳幼児期のデジタルデバイスとの関わりにおける保護者の悩み・心配事について
- ・ 医療的ケアの必要な障害児者への、ショートステイの現状と課題
- ・ 滋賀県内の障害福祉施設で働く医療福祉従事者における先人への学びによる影響と学ぶことの必要性に対する意識
～アンケート調査を中心として～
- ・ 社会的孤立を防ぐコミュニティのあり方を考える
～団塊ジュニア世代が迎える2040年にむけて 今から紡ぐつながりとは～
- ・ 障害者権利条約の批准から10年、地域はどう変わったのか？ ～障害当事者に聞く～
- ・ 誰一人取り残さない防災を目指して
～ローリスク・ミドルリスク層への、マイタイムラインシートを活用した個別避難計画の展開について～
- ・ 職場環境の改善から利用者へのサービスの質の向上に繋げる取り組み
～本当に働きやすい職場環境について考える
- ・ 本人の主体性や変容を促す人材育成の要素の一考 ～「福祉のキラビトプロジェクト」の実践から～
- ・ 社会貢献意欲が高い高齢者の就労意向や就労イメージについて
～滋賀県レイカディア大学生へのアンケート調査の結果から～
- ・ 大津の地域福祉をみんなで支えるしくみづくり
～福祉施設が分野を越境し地域と連携した活動の実践で地域福祉を進める～
- ・ 外国人住民と共につくる多文化共生社会 ～A学園とB自治会の事例を通して～
- ・ 甲賀市における「地域共生社会の実現」に向けた社会福祉法人の役割

修了された方へは執筆された論文を論文集にしてお渡します。
学生以外の方も各期生ごとに論文集をお買い求めいただけます。
各1,000円（税込）郵送希望の場合は1,300円（税込＋送料）



詳しくは で検索



滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138
TEL077-567-3927 FAX077-567-3910
<https://enishi-ac.jp>